

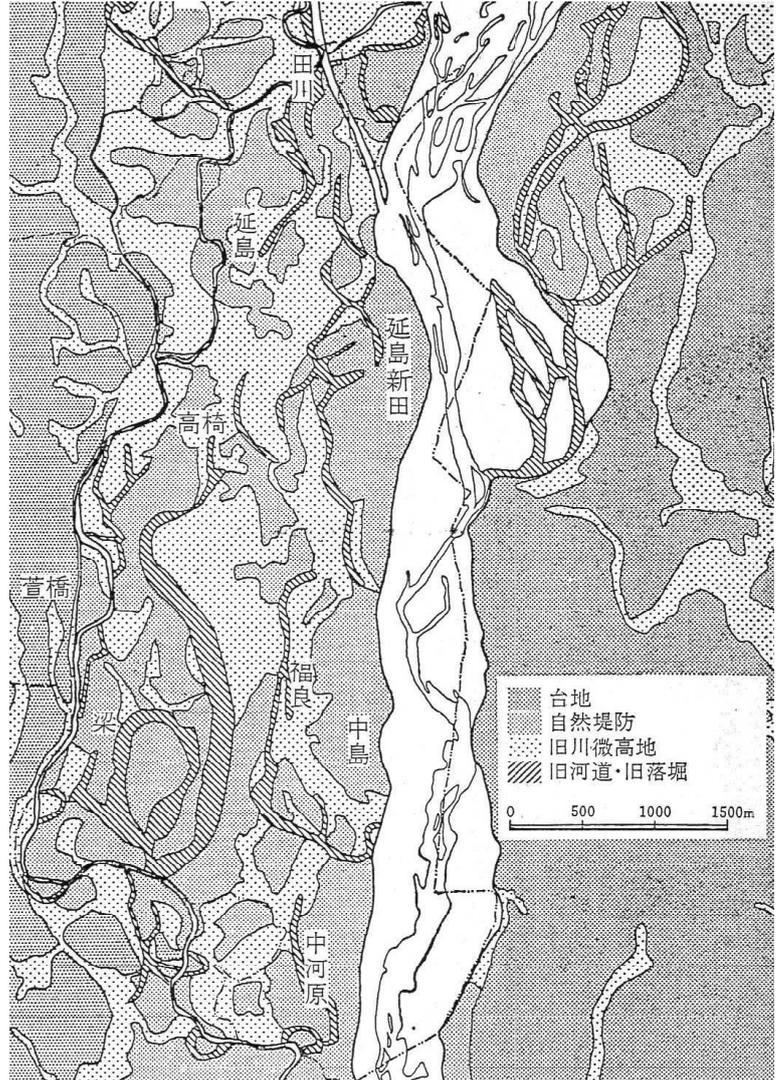
地形と土地利用

本校の学区の東側を鬼怒川が、中央部を田川が、それぞれ南北に流れ、西側には県内で宝木面と呼ばれる台地が南北に延びています。

全体には、鬼怒川と田川によってつくられた低地が大部分を占め、平坦な地形となっています。

低地の中で集落が形成されている部分の微高地は、鬼怒川・田川が低地部を流れていた当時の中州状の部分や自然堤防の部分に相当しています。かつては、福良小の周辺は、田川の氾濫による洪水に見舞われた時期もありましたが、今から50年ほど前に、田川から鬼怒川への放水路が完成してからは、水害もなくなりました。

昭和40年代からの土地改良・耕地整理により、集落以外の低地部分は、ほとんどが水田となり、かつて多く見られた桑畑は、特産の結城紬とその原料である繭を生産する養蚕業の衰退により、現在では、鬼怒川沿いにわずかに見られる程度になりました。



絹地区の地形 「小山市史 自然編」より



田川（高橋付近）



鬼怒川（中島橋）



西側の台地（西高橋）



中央部の低地（福良）